

# 誰もがあたりまえに 学べる社会のために



## 教育随想

特定非営利活動法人トルシーダ  
代表 伊東 浄江 氏

南国の甘い果物の香り、積み上げられた野菜、細く入り組んだ通路に響く聞き慣れない言葉。四十年前のインドネシアの首都ジャカルタの市場。私はジャカルタ日本人学校に派遣された夫に同行し、心許ない異国暮らしを経験していました。当時のインドネシアは発展途上国で、ときに貧しさにどう対処していいのかわからないことが起こりました。市場では安い物をした荷物を運び小銭をもらおうとする子供が寄つてきます。私は子供を追い払うために「学校へ行きなさい」と言います。離れていく姿を見て安心したのですが、なぜ学校へ行かないのか、貧しいからなのか、当時の私にそれを考える余裕はありませんでした。ただ、「世界中の誰もがあたりまえに学校に行けるわけではない」それを直視

させられました。九十年代、日本にはたくさんのお客さんが出稼ぎにきました。私は日本語を教えるボランティアを始めていましたが、そこで出会ったのが学校へ行けない「不就学」の子供です。外国人は義務教育ではないことで、当時は問題視されることもなく、見えない存在になっていました。昨年、文部科学省の調査で、外国籍の子供約二二、〇〇〇人が「就学不明」となっていることが明らかになりました。「あたりまえに学校に行けるわけではない」現実が、今の日本にもあるのです。



(いとう きよえ)



令和2年4月1日

# 4月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

教育随想……………	1
特定非営利活動法人トルシーダ 代表 伊東 浄江 氏	
この人に聞く……………	2
作家 岡崎 大五 氏	
羅針盤……………	2
南中学校 校長 和田 実	
ふれあい……………	3
小豆坂小学校 教諭 江藤 友美	
特集……………	4
令和2年度 岡崎の教育	
お知らせ……………	6
フォト・ヒストリー…	8
小刀を砥ぐ(昭和52年)	
この本を……………	8

違いを多様性として学ぶことが求められます。ジャカルタでは見えなかつたこと、誰もがあたりまえに学ぶために必要なこと。それは今、隣にいる彼らとの対話と、共に未来を創るという意識なのではと感じています。



### 多様性を受け入れること

作家  
岡崎 大五 氏

海外専門の旅行添乗員として、約八十か国を巡った後、その経歴を生かして小説や新書などを著す。

「岡崎大五」はペンネームで、「岡崎」は岡崎市のPR、「大五」は五大陸を表す。二〇〇三年、下田に移住し、現在、下田市観光大使、NPO法人「伊豆賀茂in6」理事としても活躍している。著書の添乗員シリーズ『添乗員騒動記』は、ベストセラーになった。六ツ美中学校出身。

海外に興味をもったきっかけは何ですか—

見たことのない世界を見てみたくて、二十二歳のときに、インドやタイに旅立ったことがきっかけです。

—旅から学んだことは何ですか—

自由に生きること。世界は価値観が多様だということ。多様性こそが、人類の未来を切り拓く活力になるということ。「違い」を楽しく受容すること。多くのことを学びました。

—「多様性」という意味で旅行や移住にお勧めの国を教えてください—

旅行にお勧めは、タイ、インドです。移住するならば、今は、フランスでしょうか。タイは、他人の力を借りることに逡巡しない仏教的な思想が、多様性を受け入れやすい素地をもっていると思います。インドは、紙幣に十七の言語が使われるほどの多民族国家で、民主主義のあり方を学ぶには最適な国だと考えます。また、フランスは人権の国です。首都のパリは、世界で最も多くの民族が行き交う町です。異なることをユーモアと文化で包み込む空気があり、憧れの国です。

—現在下田で、どんなことをされていますか—

執筆活動をしながらか、NPO活動をしています。空き家バンク事業によって、人と物と経済の流動性を高め、次世代の町作りに生かしています。下田は世界的なビーチリゾートとしてのポテンシャルをもっているにもかかわらず、夏の海水浴場で立ち止まったままです。グローバルな世界の中に漕ぎ出せば、リゾートの町として新しく生まれ変わわり、世界的な観光地として評価されるでしょう。また、人は自由に生きる権利があります。いかに自分らしく生きる



か。NPO活動の中でも、下田に移住して、自由な気持ちで夢に挑戦する人たちをサポートしていきたいと思っています。

—岡崎の先生に向けて、メッセージをお願いします—

人に寛容であれ。それが大切だと思っています。そして、人づくりは国づくりとも言われます。多様な民族、多様な文化を受け入れざるを得ない日本の現実の中で、いかに寛容に、人を教育することができるとか、それが先生方に求められると思っています。

岡崎には外国人労働者も多く、そのお子さんたちが、市内の学校で生活を送っています。そんな環境の岡崎は、外国文化と直面する先進地とも言えます。トップランナーとして、後に続く者たちの道標であってほしいと願っています。

氏名 おかざき だいご  
生年月日 昭和三十七年十月十二日  
住所 静岡県下田市

※令和二年一月に取材しました。



### 校歌を口ずかむとき 自分がいる

南中学校

校長 和田 実

古代、我が国には国褒めの神事というものがあった。当時、赴任する役人の最初の仕事は、その土地を褒めるための歌をつくることであった。現代、形は変わり、校歌や市歌にその精神が確実に受け継がれていると感じる。「おかざきの心の歌」の「夢ふくらませ」は郷土の自然や風土を褒めたたえ、「夢受け継いで」には、偉人の生き様や志が謳われていく。ここにもその精神が宿っている。

校歌は岡崎市内のすべての小中学校にある。式典や行事等で全校児童生徒によって歌われている。その成立は学校によって異なるが、ほとんどの校歌は、新制小中学校が発足した昭和二十二年以降に制定されてい



## 温かい言葉がけを通して

小豆坂小学校

教諭 江藤 友美

出会は前年度の三学期のことだった。一年生のAは、気持ち落ち着けるために、自分の教室前の廊下に立っていた。思わず、

「Aくん、こんにちは。今日も寒いねえ。」

と、笑顔で声をかけた。はっと顔をあげるA。みるみる笑顔になって、私のところに寄ってきた。そして、二人で短い散歩と会話をした。これが私とAとの最初のふれあいだった。

新年度になり、二年生を任された私は、Aの担任になった。四月、Aは周りの子とうまく関わらず、子供たちからAへの困りごとが毎日のように報告された。Aの動きに注意していても、目を離すとトラブルが起きる。むくれ顔のAに対して、説教するばかりであることに悩み続けた。

この状況をどう好転させるか。私はAに対して、指導する以上に、褒めたり温かい言葉かけたりするようになった。すると、Aとの信頼関係

が少しずつ築けているように感じた。これを周りの子供たちにも広げ、Aを変えるより、周りの子供たちを変えようから始めたらどうだろうと考えた。そこで、

「みんなが話しに来てくれるのはうれしいけれど、友達の良いところの話は、聞いていて悲しいよ。友達の良い姿を教えてください、もっとうれしいな。」

と、子供たちの思いやりの心に届くように話をした。

すると、その日にさっそく、「先生、Aがね、私が落とした鉛筆を拾ってくれたよ。」

と、Bが話しに来た。すぐに行動に移したBに、

「とても素敵なことだね。それに、素敵なところに気付けたあなたも素敵だね。」

と伝え、Aの行動を学級の子供たちに紹介した。これを繰り返していくと、子供たちから、Aのうれしい知らせが続けて届くようになった。それに伴って、友達に良い姿を認められたAの表情が穏やかになっていった。次第に友達の輪の中に溶け込めるようになった。さらに、A自身もうれしそうに友達の良いところを私に話して来るようになった。

こうしてAからのうれしい報告が増えるにつれて、私とAが笑顔で話しながら過ごす、穏やかな時間が増えていった。

時々、Aが昨年度のことを思い出

して、

「先生、あるとき、なんで僕に声をかけてくれたの。」

と、照れながら話してくることがある。よほどうれしかったのだろう。

私はAとこの話をする度に、笑顔で交わす温かい言葉はずっと心に残り、その子の成長につながるのだと実感する。

三学期の始業式、Aは寒い体育館で、背筋を伸ばし、真つすぐ前を向いて座っていた。

「すごくいい座り方ができていて立派だったね。うれしかったな。」と、声をかけた。Aは、目を細めて、っこりうなずいた。



る。昭和二十年代は十三校、昭和三十年代は二十五校、昭和四十年代は十校となっており、その後は、新設や統廃合とともに校歌は制定されている。岩津小学校は昭和六年に校歌が制定されており、市内でいちばんの古き校歌である。

校歌の歌詞には共通したものが多く、郷土の豊かな自然や風土を褒め、そこに集う児童生徒の健やかな成長と正しく強い人になることへの願いが込められている。加えて、輝かしい未来、日本の発展、世界の安寧、それに寄与できる人になることへの願いが謳われている。

言葉には、現実にする力を宿す「言葉」の考えが今も我が国には息づいている。校歌の歌詞には、正しく美しい言葉による成長、願い、未来への希望が満ち溢れている。全校の児童生徒が心一つにして校歌を歌うことで、歌詞に込められた力が形や姿となって具現化する。歌うことだけを求めるのではなく、意味や願いを理解する。さらに、謳われている、情景、理想、未来を心に強く思い浮かべ、本気でそう思って歌うことが大切になる。そうすることで校歌を歌う意義が見いだされることになる。



▲ 対話的な学びを構築する授業（上地小）

### 岡崎の教育が目指すもの

教育は夢見るものであり、希望に満ちたものであり、明日に期待するものでなくてはならない。それは、教育が、未来を拓く重要な鍵となるからである。

岡崎の人々の心を貫く教育の流れは、香り高い文化の華を咲かせ、豊かな精神の土壌を培ってきた。そこには、常に子供に寄り添い、子供の心を大切にし、努力をしてきた岡崎の教師の姿があった。その魂は、脈々と受け継がれ、岡崎の教育の伝統となっている。

平成三十年春、国は第三期教育推進基本計画を公表した。令和元年度、本市も、岡崎市学校教育等推進計画の策定に取り掛かった。そのキーワードは「自立」「共生」「創造」とする予定である。

未来を切り拓き、次代を生きる子供たちの資質能力として、自分で考え判断し、実行する力、多様な人々の価値観を理解し、共に生き、新たな未来や技術、世界を創造する力が必要だと考えている。

近未来は、情報技術が加速度的に進化し、超スマート社会の到来が予想されている。岡崎の教育も、不易

を忘れず、しかし変化することを恐れず、果敢に挑戦していかねばならない。

### 岡崎の教育が大切にしてきたもの

学校教育に求められているものは、児童生徒が人間として生涯にわたって心豊かで、力強く生き抜くための基盤となる能力を育成すること、知・徳・体の調和のとれた感性、豊かな人間形成を図ることである。その原点には、教師の「子供の幸せを願う強い思い」と「人間形成への情熱」がなければならない。

そのためにも、基礎的・基本的な内容を重視しつつ、物事の本質に迫る学習活動を通して、学ぶことの価値を実感させることが重要である。また、個別最適な指導を一層充実させ、児童生徒の個性を伸ばす教育を展開していくことも大切である。そのために、学校や地域の実態に応じた、創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成し、公共の精神を尊び、子供が自他を敬愛し、喜んで通うことのできる、安全で魅力ある学校づくりを目指す。

「教育は人なり」の至言のごとく、岡崎の教師は、教育者としての使命感に燃え、全校一致の指導体制のも



▲ 学びを広げるICT機器の活用（竜南中）



▲ 豊かな心を育む交流活動（豊富小）

と、敬愛の情で結ばれた師弟関係を築き、家庭と地域と学校とが協働し、信頼される教育の創造に努める。

特に次の三点を指導の重点とする。

○学ぶ楽しさを実感し、深く考え、学び続けるための「確かな学力」を育む教育の推進

○命の尊さやふるさとの大切さを自覚し、共に生きるための「豊かな心」を育む教育の推進

○体を動かす楽しさを体感し、たくましく生きるための「健やかな体」を育む教育の推進

### 時代の要請に応える岡崎の教育

文部科学省が提唱するGIGAスクール構想では、「一人一台の学習者用端末の配備」を中心に、学校ICT基盤整備を推進することで、公正に個別最適化され、未来社会を創造する力を育む「未来の学び」の構築を目指す。一人一台の端末環境は、もはや令和の時代における学校の「スタンダード」であり、特別なことではない。これまでの教育実践の蓄積の上に、最先端のICT教育を取り入れ、ベストミックスを図っていくことにより、これからの学校教育は劇的に変化する。そこでは、特別な支援を必要とする子供を含め、

多様な子供たち一人一人に個別最適化され、資質能力が、より確実に育成できる教育を実現し、「学びの深化」と「学びの転換」を実現する。

岡崎の教育は、これまでも、その時代の要請に応え、独自の教育活動を推進してきた。その姿勢はこれからも変わることはない。本年度から国の方針に従い、『岡崎版GIGAスクール構想』を始動させ、小学校六年生から中学校三年生までの児童生徒及び全教職員一人一台のタブレット型情報端末の配備と全小中学校に高速大容量ネットワーク通信を整備する。さらに市独自でプログラミング教育や遠隔授業等を推進し、新たな教育モデルの確立を目指す。岡崎の子供たちが、予測できない社会変化に主体的に向き合い、未来の創り手となる力を身につけていくために、これまで培ってきた教育実践を礎として、新たに求められる教育を弛まない授業改善と教育研究を通して実現していく。

### 重点努力事項

今、私たちが取り組むべき事柄として、以下の三つを挙げる。

- ① 新たな学び方改革への挑戦
  - ・ 完全実施となる新学習指導要領を着実に実施していく。
  - ・ 一人一台「マイタブレット」を活用した授業実践を推進する。
  - ・ 市研究委嘱校の実践に学び、子供たちが主体的に活動するチーム学習を強力に推進する。
- ② 多様な価値観をもつ子供たちへのきめ細やかな教育の推進
  - ・ 外国人児童四年生から六年生を対象とした「小学校ブレイクパス」（初期指導教室）を開設する。
  - ・ 中学校に校内フリースクールを開設し、学校生活になじみにくい子供たちへの学校生活を保障する。
  - ・ 多様な価値観をもつ子供たちに適した、個別最適化された教育を研究、推進する。
- ③ 教職員の働き方改革の実現
  - ・ 二年目となる「キッズデザイン」を継続及び定着させ、部活動や学校行事をマネジメントする。
  - ・ 職場外アクセス機能やeラーニングによる研修など、スマートワークを積極的に推進する。
  - ・ 教職員の健康維持に向けて、産業医（医師）との面談を実施する。



●岡崎市教育委員会人事

令和二年四月一日より、岡崎市教育委員会では、福應謙一氏が教育長職務代理者となった。他の教育委員は、小出義信氏、岡田京子氏、上原三十三氏の三名である。

学校指導課は、今年度も指導管理係、指導研修係、教育支援係、学事保健係の四係体制である。なお、総務課に学校情報係、社会教育課に視聴覚ライブラリーがある。

●教育機関だより



◆教育相談センター

☎71・3201

教育相談部門と通所・支援部門がある。教育相談部門には「そよかぜ相談室」があり、通所・支援部門には、不登校児童生徒校外適応指導教室

「ハートピア岡崎」等がある。○そよかぜ相談室

就学・特別支援教育・いじめ・不登校等に関する支援をしている。相談したい場合は、電話予約が必要。その後通所し、臨床心理士や相談員と相談する。また、発達障がい専門家（大学教授等）が巡回相談を実施している。

○ハートピア岡崎(竜美・上地) 不登校や、その傾向がある

子供が学校への復帰や社会での自律を目指して通所し、指導員やハートピア専属の臨床心理士による支援を受ける。通所については学校を通して手続きを進める。

○スクールソーシャルワーカー

子供が置かれている環境や、抱えている課題を踏まえ、関係機関との連携・調整や支援を行う。福祉や教育に精通した社会福祉士や教員OBが対応する。本年度より社会福祉士三名を常勤化した。

◆日本語初期指導教室

岡崎市内の小中学校に編入学、転入学してくる日本語教育を必要とする児童生徒は、年々増加している。そのため令和元年度に、中学生を対象とした日本語初期指導教室が、南中学校内に開設された。

○日本語初期指導教室

令和二年七月一日(水)～令和三年三月三十一日(水) 小ホール

令和三年三月三十一日(水) 小ホール

日本文化への適応を図ることを目指している。

◆岡崎市総合学習センター

○教育研究所

☎83・7770

・教育図書室  
学習指導案の閲覧、図書資料の貸出し、学芸会等のDVD資料の視聴ができる。  
・教育アドバイザー  
教育に関する様々なことについての相談ができる。

・学校運営アドバイザー  
学校運営についての相談ができる。

※総合学習センターの改修に伴う休館について

【休館期間】  
○大ホール、体育館  
令和元年九月一日(日)～令和三年三月三十一日(水)

○小ホール  
令和二年七月一日(水)～令和三年三月三十一日(水)

※総合学習センターの2・3階の教育研究所も小ホールと同じ期間、休館となる。

令和三年四月一日(木)からは、大ホールが多目的ホールとなり、パーティーションで仕切ると講義や会議にも利用できるようになる。

教育研究所には、簡単な実験等ができる洗い場付きの研修室や、充実したICT環境の整った研修室ができる。研修内容、研修人数に合わせて、より幅広い利用が可能になる。

●表彰

◆第24回全日本中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト 愛知県大会

○中学生の部マリンバ独奏 金賞 南中 天野 風彩

◆第24回全日本中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト 東海大会

○中学生の部マリンバ独奏 金賞 南中 天野 風彩

◆第56回全国児童才能開発コンテスト  
○作文 低学年の部

文部科学大臣賞

矢作南小 後藤 新智

全国都道府県教育長協議会

会長賞

矢作南小 圓城 郁直

全国連合小学校長協会会長賞

根石小 畔柳 希子

学研賞

細川小 久谷 心菜

才能開発教育研究所財団

理事長賞

藤川小 近藤 翠咲

○作文 高学年の部

全国都道府県教育長協議会

会長賞

三島小 嶋屋 心音

上地小 三浦 涼生

全国連合小学校長協会会長賞

大樹寺小 巴山 侑莉

日本PTA全国協議会会長賞

根石小 石坂 海太

三島小 杉田 遥香

学研賞

細川小 近藤 獅風

岩津小 橋爪 輝

才能開発教育研究所財団

理事長賞

細川小 濱崎 彩恵

◆第42回未来の科学の夢絵画展

○小学校・中学校の部

文部科学大臣賞

六名小 石野 雅宜

●期待の新任教員

令和二年度岡崎市小中学校

新規採用教員は九十名(養護

教諭・栄養教諭を含む)で

ある。

なお、配置は次のとおりで

ある。

◆新規採用教員

梅園小学校

岡田 優希

根石小学校

浅井 博規

今泉 雄大

中根なぎさ

大屋 徳明

近藤 優花

美合小学校

日高 望

中瀬 優花

神谷 昌輝

藤井亜有梨

三浦 理沙

飯田 将太

岡崎小学校

筒井麻由加

岩津小学校

中根 大登

石田みのり

伊藤 諒平

六ツ美西部小学校

細木 貴志

三島小学校

新村 栄基

富澤 春華

岩瀬加世子

山村 美智

伊藤 学

間瀬 颯良

丹羽 一稀

石川 依里

落合 志帆

生駒 謙汰

吉形 友亜

福岡小学校

太田 奈穂

谷口 瑞季

原田安理沙

都築あすか

安藤 怜菜

保田 晴香

本宿小学校

菊池 洋杜

小菅 寿弥

秦梨小学校

常磐南小学校

恵田小学校

片岡 佑奈

杉原 好美

江本 望

半田 大和

出村 柗太

伊藤 諒平

目黒 雅晴

杉浦 聖

大門小学校

廣藤 静香

中村 太郎

永井 利絵

伊藤 望希

植村 知史

浅野 貴裕

平松 朋音

杉本ゆず葉

服部 隼大

坂野 文音

深谷 禎紀

下田 桃子

近藤 智也

後藤 元輔

野口 慎史

千田 理央

畔柳 駿

杉本 光

鳥居 志帆

戸林 凌

羽原茉莉愛

鈴木 彩華

高見 香澄

松井 望海

山中 隼

六ツ美北部小学校

矢作北小学校

矢作南小学校

矢作西小学校

矢作北小学校

大樹寺小学校

可知 周平

小川 実希

小栗 奈穂

豊富小学校

夏山小学校

原山 昇士

美川中学校

杉浦 彩貴

竜海中学校

小田紗矢香

葵中学校

平石 汐里

城北中学校

加藤光一郎

福岡中学校

長谷川マリ

河合中学校

吉岡英里奈

岩津中学校

古山 美紀

山本梨紗子

矢作中学校

竹中 徹

六ツ美中学校

伊奈由紀乃

矢作北中学校

山田 菜緒

菅原 司

竜南中学校

鈴木 裕輔

六ツ美北中学校

木下 相憲

翔南中学校

村松 紀子

森 友輝

矢作北中学校

荒川 泰輝

北村 志帆

長谷 光都

矢作北中学校

小杉 祥那

連尺小学校

矢作北小学校

甲山中学校

北村 志帆

矢作北中学校

荒川 泰輝

矢作北中学校

荒川 泰輝

北村 志帆

長谷 光都

矢作北中学校

小杉 祥那

連尺小学校

矢作北小学校

甲山中学校

北村 志帆

長谷 光都

矢作北中学校

荒川 泰輝

北村 志帆

長谷 光都

矢作北中学校

荒川 泰輝

●期待の新任事務職員

令和二年度の新任事務職員は四名で、配置は次のとおりである。

・題  
・タイトルバック  
・各タイトル  
・カ  
ト  
ル  
字  
南  
中  
長  
安  
藤  
直  
哉  
形  
塾  
中  
大  
嶋  
田  
佑  
子  
翔  
南  
中  
金  
澤  
一  
幸

## 小刀を砥ぐ (昭和52年)

写真提供：羽根小学校

昭和五十二年、羽根小学校では制作と行動を通して豊かな人間性を育む研究実践が積み重ねられていた。「手仕事」と呼ばれる毎日の十分間は、自前の小刀で鉛筆を削ったり、給食で使う箸を作ったりした。また、竹とんぼを作って遊ぶこともあった。写真は、それに用いる小刀を砥石で砥ぐ子供たちの様子である。小刀やはさみを使い、夢中になって制作活動をする中で、工夫が生まれ、教え合う姿が見られたという。休み時間も、竹馬やリム回し、タイヤ乗り等、子供同士が教え合い、夢中になって遊んでいた。体験的な活動は子供の意欲を高める。それは、今も昔も変わらない。



冬眠から覚めた蝶が舞い、チューリップやツツジ、パンジーなどの花が、町を華やかに彩る。心弾む季節。子供たちにとっては、新しい先生、新しい仲間と共に迎える新学期。希望に満ちた新鮮な思いがさらに膨らむ一年であれと願う。

# ど ホ ツ 卯 目



ドキドキワクワクの新学期発表表 (梅園小)

報道されるのは、世界中で拡大する新型コロナウィルス。岡崎氏は、「世界を旅することは面白い。人生もまた面白い。旅と同様、どうなるか想像もつかないのだから」と語る。一日も早く、安全に旅することができると待ち望む。

つながっていく言葉と心。笑顔でかけた何気ない一言が子供の心に温もりを与え、かけがえのない絆が生まれる。子供たちの毎日が、温かな眼差しと笑顔があふれるものになるように、私たちは何度でも、子供たちに語りかける。



\*宇宙兄弟 今いる仲間であまくいくチームの話 長尾 彰  
学研プラス ￥1,400

心に残った一文  
リーダーに必要なのは、管理より「自律」を生み出す力

集団をまとめ、導く役割を担っているリーダーは、ともするとその責任の重さから管理することに力が入りがちになる。集団が大きくなればなるほど、管理することは難しいと分かっていても。これは学校の授業においても言えることではないだろうか。学校教育において授業改革が叫ばれて久しい。授業に求められる教師の役割は、子供や授業展開を管理することではなく、それぞれの考えを巧みに引き出し、深い学びへと導くことである。これぞ本書で述べられているリーダーの姿そのものである。

- \* 敏感な人や内向的な人がラクに生きるヒント イルセ・サン  
ディスカバー・トゥエンティワン ￥1,500
  - \* 先生、この「問題」教えられますか? 石川一郎・矢萩邦彦  
洋泉社 ￥890
  - \* ルポ 定形外家族 大塚 玲子  
S B 新書 ￥830
- 宮崎小 岡 秀之